

## コラム

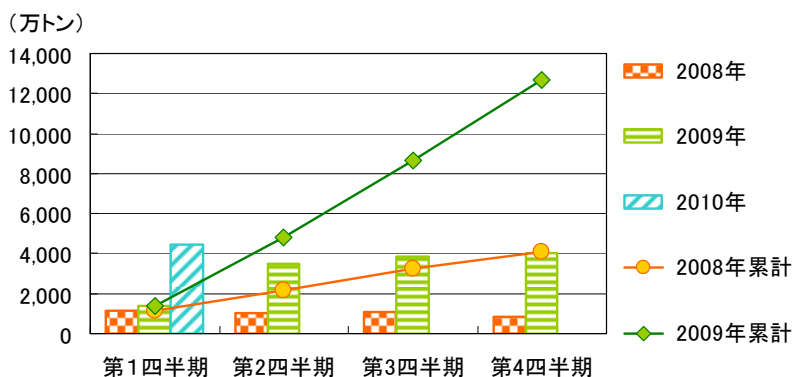
### 拡大する中国の石炭輸入

戦略・産業ユニット 石炭グループ 主任研究員 小泉 光市

2008年秋以降の世界的な金融・経済危機の影響から、日本やヨーロッパの先進工業国における石炭の需要は落ち込み、こうした国々では石炭輸入量を減少させた。しかし、高い経済成長を維持した中国は石炭需要を増加させた。最新の統計<sup>1</sup>によると、2009年の中国の石炭消費量は30億トンを突破し、30.2億トン（石油換算15.4億トン）に達した。中国は世界最大の石炭生産国であるが、国内炭価格が高値で推移したことから石炭輸入量をこれまでになく増加させている。

中国の石炭輸入量は2008年においては4,080万トンであったが、2009年には1億2,660万トンにまで急激に増大している。この量は同年の日本の石炭輸入量1億6,190万トンに次ぐもので、韓国の1億300万トンを上回った。世界の石炭貿易の市場規模を9億トンとすると、14%を中国が占めたことになる。中国の石炭貿易は、2008年までは石炭の輸出量が輸入量を上回る状況が続いたが、2009年は一転して、輸入量が輸出量（2,240万トン）を大きく上回り、中国は石炭の純輸入国となった。

図 中国の石炭輸入量（2008年から2010年第1四半期）



出所：TEXレポート等、中国海関統計に基づくデータにより作成

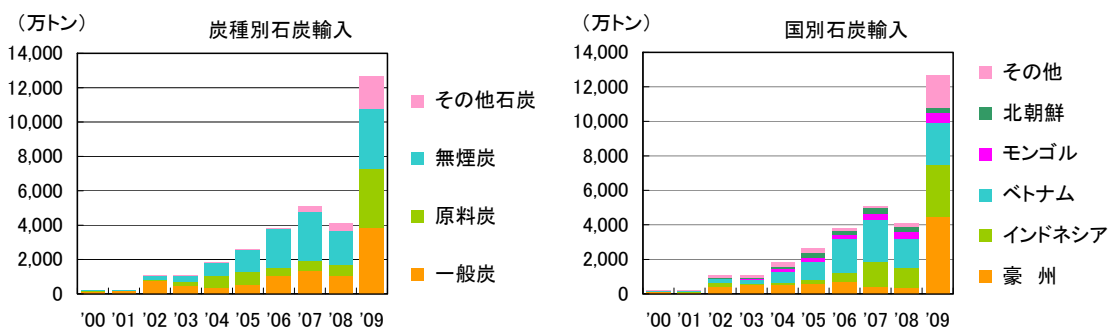
中国の石炭輸入が増加を始めたのは、2009年の第2四半期以降である。2009年第1四半期の月次平均輸入量は450万トンであったが、2009年の第2四半期から第4四半期の月次平均輸入量は1,260万トンとなっている。2010年の第1四半期の月次平均輸入量は1,480万トンで、昨年後半を上回るペースで石炭輸入が継続されている。

これまで中国は国境を接するベトナムからの無煙炭を中心に輸入量を増加させてきたが、

<sup>1</sup> BP Statistical Review of World Energy, June 2010

2009年についてみると、豪州からの輸入量の増加が著しい。豪州からの輸入量は、2008年の350万トン（原料炭140万トン、一般炭他220万トン）から2009年には4,460万トン（原料炭2,270万トン、一般炭他2,190万トン）に増加している。2009年において、豪州は中国の石炭輸入量の35%（原料炭66%、一般炭他24%）を占めた。

図 中国の石炭輸入量の推移



出所：TEX レポート等、中国海関統計に基づくデータにより作成

中国は2009年の実質国内総生産（GDP）が対前年比8.7%増と力強い成長を維持しており、粗鋼生産量は対前年比13%増の5.66億トンと伝えられる<sup>2</sup>など、世界の経済を牽引する役割を果たしている。中国は国内生産だけで満たすことのできない原料炭需要を海外に求めており、中国の原料炭輸入が増加した理由をここに求めることができる。中国の原料炭輸入量は2008年の690万トンから2009年には3,450万トンへと増加した。

経済の拡大が続く中国にあっては電力需要も拡大を続けており、国内電力用炭価格も国際価格より割高な傾向が続いているため（中国南部沿海地域ではフレートを加えても海外炭の方が国内炭より安価となるケースが生じている）、一般炭の輸入量も増加している。中国の一般炭、無煙炭、その他石炭を合わせた輸入量は2008年の3,400万トンから2009年には9,210万トンへと増加した（中国では無煙炭も発電用燃料として利用している）。

2010年に入ってから中国は昨年後半を超える水準の石炭輸入量を記録しているが、その内容に変化が生じている。2009年は輸入量に占める豪州の割合が35%と最も高く、以下、インドネシアの24%、ベトナムの19%と続いたが、2010年第1四半期にはこの割合がインドネシア41%、豪州24%、ベトナム11%となっている。豪州からの原料炭輸入量が減少し、インドネシアからの一般炭（その他石炭を含む）の輸入量が増加している。今後も中国国内の電力用炭価格が昨年と同様に輸入一般炭価格よりも高い水準で推移した場合、一般炭の輸入量がさらに増加する可能性も考えられる。

お問い合わせ：report@tky.iej.or.jp

<sup>2</sup> Reuters (<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPJAPAN-13448820100121>)などを参照。